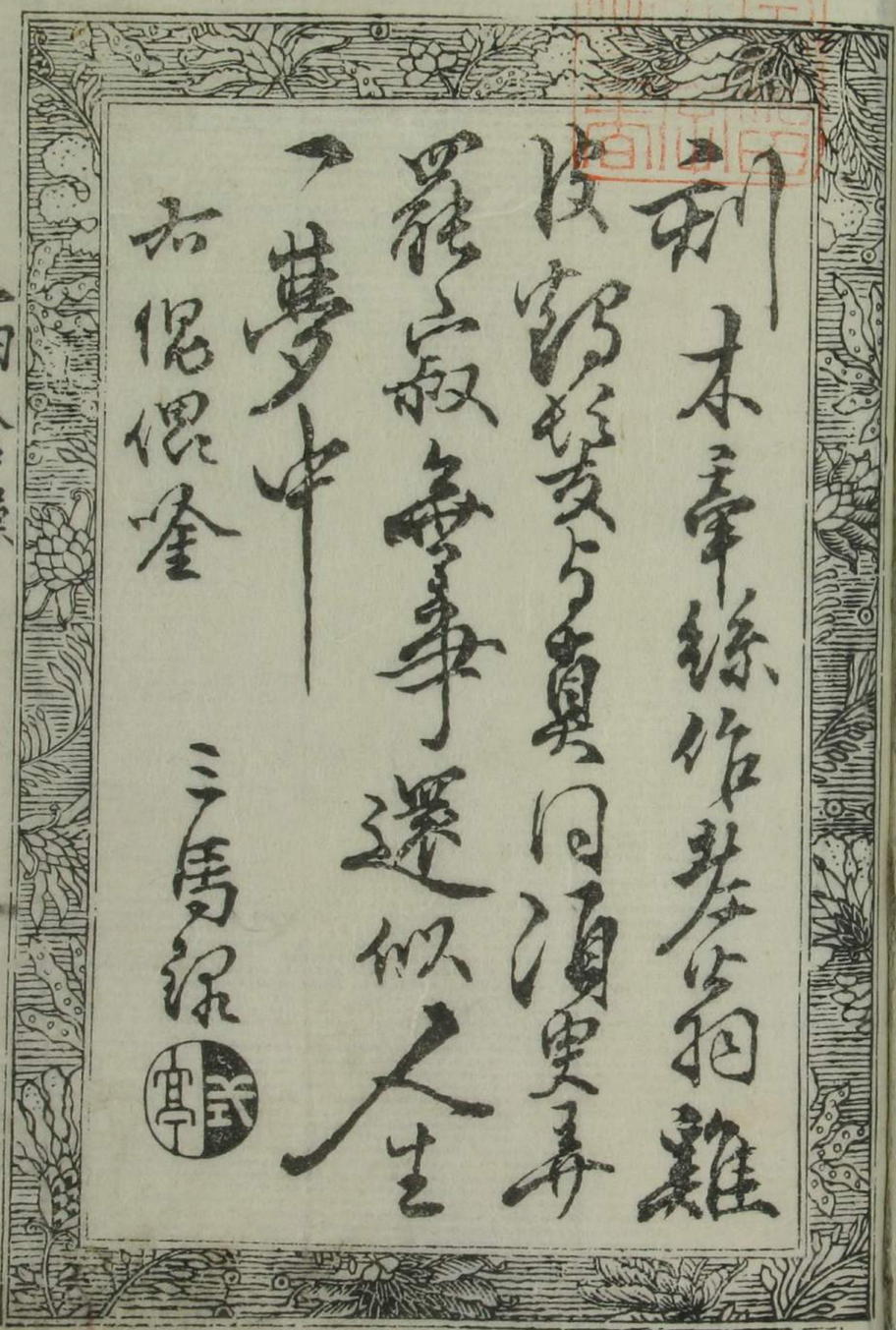
狂言田舎繰

春

特
へ遠 13
1749
1

へ13
1749
1-4



田舎操芝居

舞臺正面

同正面より遠向

てひのむき高名正者人の物見

の方を見ては図

狂言を見ては休

人形開全体之圖

○切胴人形仕立たる図切胴の時ハ図のごときとなる○なれ○たらの切まる所あるき紙を能く切て入ケおふ付る

但し〜うしろ迄一ケおふ有り

○衣装を付ること考のごと

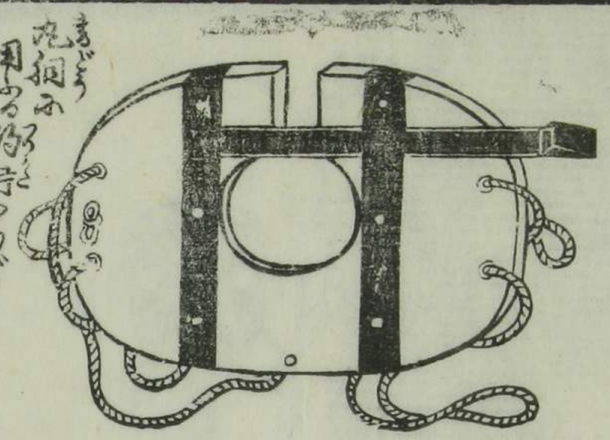
○衣装の名目、舞伎ふ由

○狂言ふよりて人形○衣装を着ることありこれハ別て衣装のうへ〜る掛とこ〜ら〜間だろうさ〜えると人のよく考るこれ〜こと略す

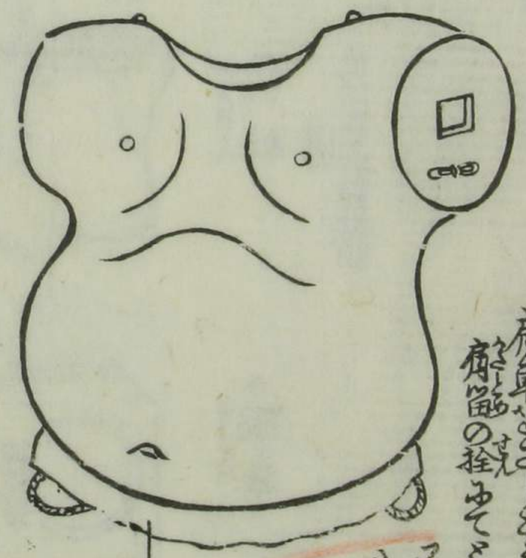
○衣装ハ常の下にて横に切明けこ〜ろ〜ろ〜〜〜そ〜らをつ〜ふ又うしろをつ〜る時ハ腰の下のあたりよりくをさ〜ふ〜〜ふ〜り肩たりのくをつふ人ハ左右のくをつふ

○人形の脚をつふ人ハ〜〜〜

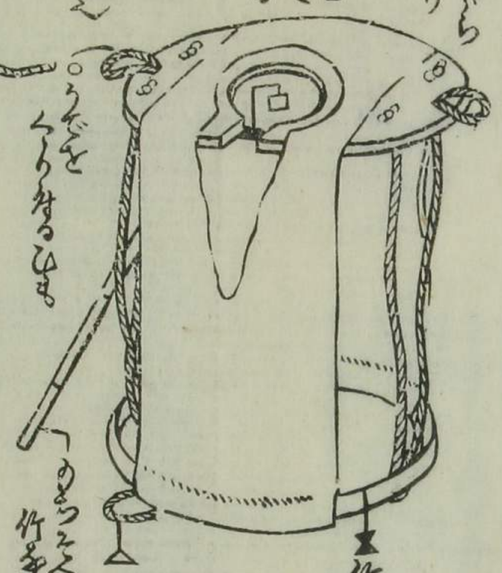
○片板裏を写る図



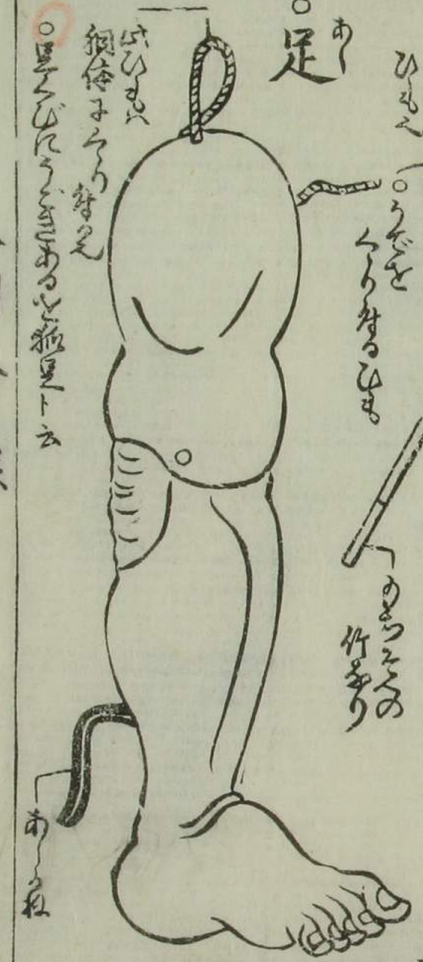
○丸胴



○切胴仕立の図



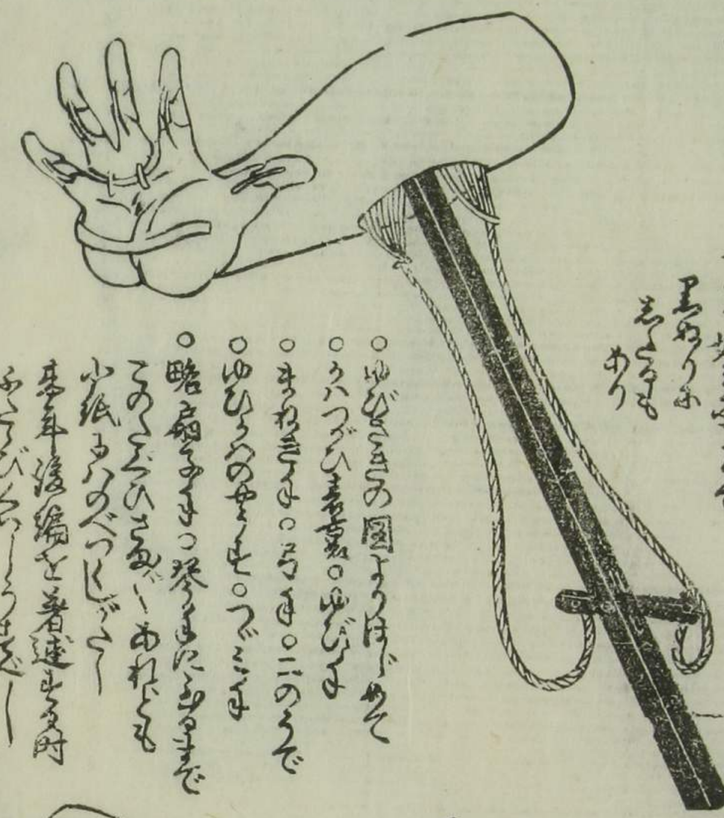
○足



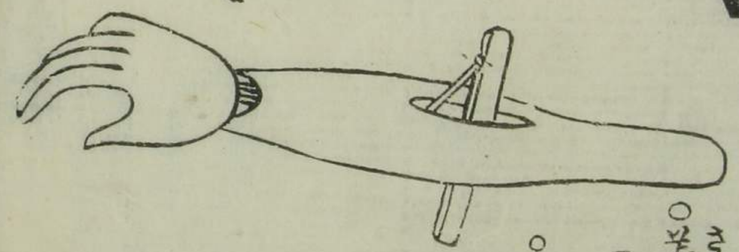
○肩車

○抓手

○さしがねハ竹木にてつくり竹をふとくして黒あるいハ赤くるもあり



○ゆびさきの図ようにかたちて
○うハづゝハ青竹○ゆびさ
○きれきれ○ゆびさ
○ゆびさのかたち○つゝこ
○略扇子まつ琴ハ三ぼんあれども
このゝゝびさゝ〳〵
少紙もハのべつゝじゝ
毒年後編を著述する時
ちゝびゝゝ



○差込手

又ハ竹をもいふ
○ちゝとめちゝて
神ゝゝ
胸ハ
つけゝ
けゝ

○扇子手

○ひゝどゝ子用ふゝでゝびハゆゝゝあゝて
うゝびハ紙ふゝゝゝ

田舍芝居賣主證文の寫

一金何程也

右之晴天七月ニ賣渡ス所ハ今ハ何程
相違ハ不申候ハ、金ニ成ル迄ハ
對決ニ相究ル迄ハ相違無之ハ
ハ七通リニ成ル迄ハ先キ芝居之儀

一ハ芝居ハ万一私芝居ハ中
ニ浦ニ成ル迄ハ
三種物産中ニ
一□□□

同買主證文乃寫

[illegible]屋居買清ヤ一札之事

一此度当方ノ[illegible]方ノ[illegible]撰産日数七日也晴天[illegible]
右代金何程ニ買清申不実ニ而[illegible]
但程相渡ハ右[illegible]合ニ成ル[illegible]
間中日延ニ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
一[illegible]ハ右日数ニ間ニ雑用等[illegible]
此方ニ[illegible]
造りニ日数ニ[illegible]加ル

一日延[illegible]ハ右[illegible]
一[illegible]居[illegible]
三里[illegible]
一初日ノ終リ日延[illegible]
入用ニ[illegible]
[illegible]
右ニ通ル[illegible]

月日

買主 [illegible]村 万八○
[illegible]村 千三郎○
世話人 [illegible]村 [illegible]郎○

[illegible]撰[illegible]

田舍操芝居樂屋掟書乃寫

火のえ大切

女中出入無用

他の人がくやくに入るべからず

什一教ゆえありて省之

いさのひ無用

酒ぐやく一切無用

盜人用心

もの物用心

小便無用

いづれも西の内紙を貼りて四ツめ切て書くべし

狂言田舍操卷之上

江戸 戯作者 式亭三馬 門人樂亭馬笑 合作

所へ何國と定め難く住めば都の隅の野寺の鐘

風呂を焚くする蝶貝の音 ブウリ。蛙のなぐく音かく。

藪鶯の法華經も。花言の脫ざるお經聲義太夫節

やゝ竹本も。竹ふ轉る雀も若くちやゝいて来

かゝる八浪花うまれふ侘もやゝぬ潜人組の拙淨瑠璃

廣い世界ふあまされて常に旅本旅籠太夫 柳行李の中ふ、四畳半の

ゑ行庚午年。葦菊の写料といふことして出版の無切思按。外ハ西宮新古版ひ〳〵ふ大こりの合巻あまた。細工の写表紙うけるハ。はれふ典鋪〳〵三百の通用。内百文バヅボウトウ。袋ふいれてそれぞ〳〵ら。師匠ごとに前貫ふる戯の裁の五七尺の〳〵進上と深接るを八所縫の小風呂敷ふ。て。腹巻のて中絡〳〵ふ。昂や〳〵て資負〳〵ありとこ。後がなきいちやうやり〳〵の。其軍法ふいさそ〳〵ば。富士見西行そこのうちもんせいすぐ拾ふ。黒色ふ稼うけふる南絵縞も。まぐろひ本綿の黄昏時。魚市場の大ふひ〳〵〳〵毛のひ〳〵と。ぬけうるぐき本綿天鵞絨の賊の縫束つけうる中下刻の紺合羽身に。はく金紗ハおびうえの一腰。行灯や〳〵仕入の真渝製。借物ことそ。ふえうなれ。頼むまの下。雨具の用意。世ハ情るき其中ふも旅を。道連今ひ〳〵ハ人形ぼうふの一[ひと名でく義]黒具紙資負ひどてら。帯ふに三尺帯。股引。そして屁〳〵げ。仕人形ぼうひの衣裟を[くろご]。とらふこ。黒具の摸じ〳〵ふり。仕滑ふ頭より。ふまで黒き衣。ゆて具合とするゆゑ。黒具ぼ〳〵ふ。下略〳〵て黒具〳〵ひ〳〵を。邇就ふくろごといふるぐ〳〵。○多惜〳〵ゆこハ。本雑ふの跡〳〵に。

▲生ふ人ふ〳〵〳〵〳〵ごろ〳〵罕罕と。ふ。そりや〳〵家が。

ふ。これを考て。ふ。二つて。ふ。ふ。ふ

[illegible]。これハさぞ[illegible]ふあ[illegible]ん。[illegible]の山猫ハ家数ぐ多うて、余方言葉ぢ[illegible]ん[illegible]あり。

の物ふ為替ん[illegible]ん。ヤコレでくきん。チト息して待うぢや

あるまいろ。「そこらでおぜく、せう、お休田園の塔あり。

向ふに塔ぐこそるる〳〵。「そりや何ぢや」「島よ

半嶋の孝ありぐさいふ。おろく[illegible]ぐ遅くてあく程。

「[illegible]く。悪だやうやぐ。「おめ、ハ、生まれ。

「ヤ出まん。〳〵。何ぬ[illegible]ぐい。夫程あて。何ぢやお

休ろ。[illegible]待く。待てくれ。待てくれ。「サア〳〵お草く

く。お急ぎ〳〵。大分お疲ぐナ。「お休こ。お

休と。「地ぐお休ろの。「ヨットあるく。「あるハ

滑のあろッ。「滑のあ。ヤ拙ぢやあいの山猫ぐ。

稚くふことぬるとさるんハぐぐ[illegible]ぐるいの。サアあるく。

四ハ合と[illegible]ぐ。「あの[illegible]ぐ。「サア[illegible]ぐや。

エヘン。お休程でハ[illegible]ぐ。「[illegible]ぬ。トテチン。[illegible]の物で

酒[illegible]。地滑と[illegible]ぐ。ア悪い〳〵。「トットいひ

人のあんハ合ぢや。是を待のでたまるのあん。「そりや

さうと休べのどやア稼くら。「そりやアさうと体もどい」ト江戸をまりの中みも「又何とぐめう甚上方」でく

ぢやア稼くら。ト江戸をまりの中みも「又何とぐめう甚上方」でく

者の江戸流も真平ご出嚊ぐ言らア。別ちやア稼く

何ぞやうの何ぐて。江戸とも上方とも稼く。一体

徳ぐ遠ふた。芸種ぐ地ありやあ知てくるう。

へんぽうらぐご。トント田舍者の同者何よ。たとへば

可と言ぐ万葉とやう〜慢張ると言ぐ言

ぐと浮世風呂ゆも天てあるう〜利でもやうご。

ハテ江戸流とつよりれど。知らが何ハ下司下郎で。

どうと鄙〜いのご。正銘の江戸言とつよ。江戸で

うまれこお歴〜の洗ゆよのご本江戸ご。ここれハ又ゆん

のふご。何の國でも及ご稼くこご。移住移者。

めで何いうて山猫仕くまもてござるゆどくいふ。

まやんうて言流でこ。ごやうで。実ども嬉男ご

うく稼ゆ京女郎と對句てある笠ごちつと寝

義がもく知ご。江戸言繁花の地で。諸國の人ウ

會るゐぢろう。國ぐにの言ゞは皆ゆゝ馴て通じるふ順つて。諸國の言ゞは江戸者に移らうぢやアあるめえ。そこで正真の江戸言ハ。孰ゞ支ぢやら混雑を為ることいつまでもさそこでもお屋くまるあるこそ。皆江戸弁といつられど。作るのハ下司下郎だろうよ。江戸の中僅廿町も隔りと雖ふ遠ふ。おなじ江戸成ると雖いつて紙。おなじ江戸成ると雖も夫ゞ常の人の言ゞ。一里も隔りとよろ。ゞど異ゞある。江戸〻五里十里隔さ人ゞ上方へ登つて見ゐ。已等江戸っこゞア。あどでやらうて。江戸者の風をしてゐる人もあるゝ。上方でハ関東者さ云まゝバ。江戸弁さの。江戸弁場ぢと一同ふ笑て。江戸〻言で堺ハ祖〻ある。ゞど潰紙きけバ梨ゞ和ゐ。「どういふ義ぢの。」「有ぐ云の裏だや。」「おきやアゞれ。何をいつしやる。」「だも」ゞゐ上方も當時ハ諸国地の須づひゞ云らう混りる。皆おゝ江戸をまゐゐるだや。面くの生國を異ハ申ろ

まへのうちやぐナ。「ヒヤラン」通〳〵いふ者もあんのまへ。
「阿房らしい」洞然はせんいらの。「マア」おらが有〳〵登りて
見やんせ。まづ潮来ぶーナ。奥行節ナ。ゑゝ上まが
出来てナ。「トット」おいとを負ひらい。通来菓漬屋も
出来るナ。でく「江戸の拵よ十二文ッ」「いや〳〵」「出一人」
銀五匁ぢや。でく「こりゃいかをつい」「上でハ拵よ」
銀同じやらの。でく「江戸者も銀遠で損をするさうど。
「ハア。これハ返洞よ。あまへ」でく「徒〳〵亜切て定價より

高う買ふ達ぢや。来年の頃徒んう。でく「徒こん」「徒
こんとふあんぢやい。でく「あめ〳〵徒んうといふ〳〵。徒こん」
「賣洞よ」「買洞ス。「江戸ぢやらふ〳〵」「色
でうさうらうの」「さうもいくまいこん」「これハ怨る気勢
答をきくのうふまづ顕よつひまとるゞ男ゞ好て」「金
めゞ」「東西心のまゞゞ」「異鬼ゞ高らう
強くて」「押出ーと」「ゑゞ」「逆ゑ裏
ゑゞ一分も持ゞ」「見ハ〳〵ゝ。舞屋〳〵ア。

移り。ツヒウト拾ひて。備ふ。ちはいて。まので。掘くぶす。黙止
のゆふ小言氣が酒屋めあり。お多福とアンせて。喜ぶで
ばざる。浮屋とアンれの。茶碗酒。瓜漬の。宝賣り。潮
こ来で。娘娜が文句モシ。奇〳〵妙〳〵。トきいろのつ声まで。
「まづ最初が。道頓堀。」「それこそ好観物ぢ。」「京
邦まで八。四條河原。「大酒まで八。大丼。吐逆八。白九の
硯蓋で。尾籠ぶ〳〵。お目ふうけこテ。「ゆこ〳〵。茶店
ぢや〳〵。休まんせ〳〵。ヤアこりや〳〵。肝心のるり。拾はわ

あるん。跡ふ。移り。拂ふ。さころん。家ふ。茶代八。ぢ〳〵。出〳〵。
出〳〵。半〳〵。でまれこふと。「ハア。ぢやぢや。トくち。「ぢ〳〵。ぢ。
ふ。浮るりこりの方言。蛙ずふ。鉦を。「そこぢ。江戸ぢ。
淡ふ。軟ぶ〳〵る。所滑トグリ。ぢ〳〵。
堪忍〳〵。ぢ。ぢ〳〵。出〳〵。トいひ。離ぢ。ぢ。「ぢ。
ぢ〳〵。ぢ。出〳〵。ぢ。ぢ。「ぢ。ぢ。ぢ。
かとろて。雑用八。ぢ。ぢ。出〳〵。何ぢ。面〳〵。拂ふ。男ぢ。
すこぢ。紙ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

でいの假在行上でいの眼がりめハ形容ざるうゆきう
ムさいて性根ざ弟。ゆきるとハ江戸あの「ゴそそれを「ラット」。
いやゝき金銭のるゆそてのだるぐゝぶ逆上金ハ通物借る
ゆさる物としてある。「阿房つゝせ。ヤヤ。急ぎ出ざふ。
さや茶屋ふ着てのトたるるん。アハゝゝ。「そこらが
常りおの酒ぐ。「でゝきん。おまへひとり甚ふ
体ゝ。コゝハあこの地ぐふ体も。トたるく出げ笠を「ロ
あされるぜ。入るまでの勘定ハ晩ふ皆源もるハ家へ

体まつゝ。「さうこけ稼ぐふんあぢや。そんふゝ体
でこそせ。ヤコレ茶屋さん。コゝゆも茶ひゝ川ちんせ。温
いぶ結ぞや。的さんゆハぬるはどをせてゝぐんせ。ヤコレ雑
度をとうまて来ん。こんどゝゝ別宮を連て来ん
ぞや。「てゝゝゝ都河ふ出るゝの如在移ゝ男ざゼ。
茶代の割を中分ふおそるん。「ゴ沙のふゝん大
ぐだや。コレ沙の宿でナ。コゝハ茶漬半膳食て八文よ。
おまへハこ膳食て四十八文よ。ナ。結ゝ夫ゝ稼ふされ

や。ヨウ、あるもく。ゆでたまごが四文の二ツと。それから行あの。菜代が八文よ。全体ありやアア。五文で結ぶと。いくらぬ氣ちがいや。それ〳〵初ツ。まぐろ丼飯一ぱい二人分三十よ。結ぶ初ちやふよりてと。四千八文の指文。五千八文で。六千二文の。丼飯が千五文。あアメて七千七文の貸とあるこん。結ぶ。「ア、ヤ〳〵菜でも二ツの割さ。「イヤ〳〵菜漬飯で遠よ。まア。それんぬ肉が指面ふまるーてと。「紙ハと。「ア、ヤ〳〵いつよとす。トいひあ〳〵ととごたまご紙ふう。なまぬ四切りあるもの多と五匹。

「ア、あんご美ハ。また「それから茶の茶碗の茶碗の口上書ぢや。「ドレ〳〵トたごとのあ〳〵よむ。

茶碗の〳〵代告まあ〳〵さるる洞

竹林のもとまるる。めでたう。豊所のよれ
使つかるよ。浪花の江戸ふーとる世ふたく
まるる。笠屋播磨と世ふきこえて。ふと
まち大人たちの坊まして。紙屋笠のと名さ
たりしぶり。大人さちの答ふりる。

さわぐ老若のけきんを潜、次は浮つきち
の流れをたゝぐ、芸者し時代の神と雲ハ。
陸地両家の掛合ひとゝく西口あれば
東口あり東にのるて西又なゝんや東西く。
抑是も大序れ洞序切二の切四の中く。
まうもも長年あぬはめぐみを。はゝ様やゝ〳〵お
願ひやゝ〳〵孫まゝ〳〵異ちある人舞とも合せ
てこの仮口上何とゝやゝ〳〵て物ゝやゝ〳〵と。

道ゆき此様子人。まゝより踊の上ゝ
あれ〳〵出洛乃紙ぐ〳〵ぐさ〳〵あて〳〵藤
若〳〵ぐ〳〵ぐと。西陸国の絵く摘ぐ。山愛れ
様をまゝ〳〵ぐと。洛東夏洛中様方の出
ゝあれ〳〵ゝぐひ。大稼れふく思ひする家
国を。新宅みく無〳〵ぐるゝ〳〵。
新ゝも縁あゝ。浄瑠璃ゝも国ゝ国ゝ。
大坂屋れあゝぐ〳〵受ほけ。さゝべ堂数を

貸さんしまいまいに。甚うけ声誠幸ひ。聞よ
合のまれる狸といひ。彼宅まて。お暇
申候。内則深れ新吉を誘ぜて。胡蝶寄時
より。新蔵。内儀。しるし。庄屋。の祖
父。ほなる。帝。まいまいに。甚。高上乃
人形。よりて。空。紙つきする上下ひいた。
貧をどるくより。母。扇よりる。者の
まか。茶。お。聚てしらよ。